

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-309379

(43)公開日 平成7年(1995)11月28日

(51)Int.Cl. <sup>9</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 83/06	L			
47/14	C			

審査請求 未請求 請求項の数2 F D (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平6-123210

(22)出願日 平成6年(1994)5月11日

(71)出願人 391013025

阪神化成工業株式会社

富山県富山市小中163番地

(72)発明者 藤本 高志

富山県富山市小中163番地 阪神化成工業

株式会社内

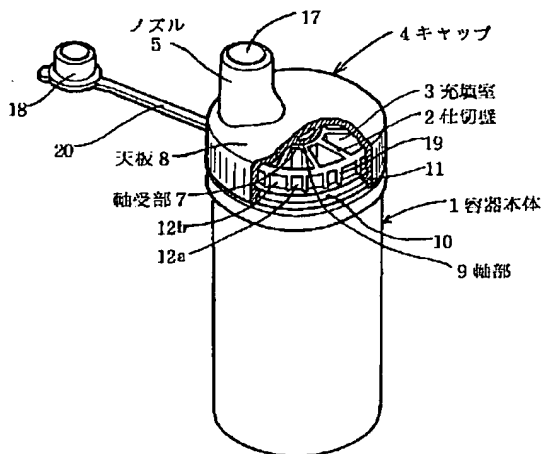
(74)代理人 弁理士 宮田 信道

(54)【発明の名称】 定量取出し容器

(57)【要約】

【目的】 操作の差異に関わらず均一に充填物を取り出すことができ、一定量を取り出す際に、それ以降も貯蔵される残りの充填物の保存状態を維持し得る定量取出し容器の提供を目的とする。

【構成】 円筒状の容器本体1に、その内部を放射状に等分割する仕切壁2にて仕切られた等容積の充填室3を複数形成し、容器本体1の開口端を封止するキャップ4を回転自在に嵌合し、該キャップ4に単一充填室3内の充填物のみを取り出し得るノズル5を設け、キャップ4の回転に伴い、ノズル5と単一充填室3との向合時にクリック感が発生するラチェット機構6を設けた定量取出し容器。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 円筒状の容器本体(1)に、その内部を放射状に等分割する仕切壁(2)を設け、仕切壁の間に等容積の充填室(3)を複数形成し、該容器本体(1)に、その開口端を封止するキャップ(4)を回転自在に嵌合し、該キャップ(4)に単一充填室(3)内の充填物のみを取出し得るノズル(5)を設け、キャップ(4)の回転に伴い、ノズル(5)と単一充填室(3)との向合時にクリック感が発生するラチェット機構(6)を設けたことを特徴とする定量取出し容器。

【請求項2】 容器本体(1)の開口端の中央部に軸受部(7)を設け、キャップ(4)の天板(8)の裏面の中央部に前記軸受部(7)へ回転自在に、且つ離脱困難に嵌合する軸部(9)を設けたことを特徴とする請求項1記載の定量取出し容器。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、充填物を一定量ずつ取出し得る定量取出し容器に関する。

## 【0002】

【従来の技術】従来より、調味料や洗剤等を適量ずつ取出すために、充填物を一定量ずつ取出すことができる定量取出し容器が案出され、例えば、実開昭52-108953号公報(イ)、実開昭53-66457号公報(ロ)、特開昭52-143177号公報(ハ)等に記載されている。前記(イ)、(ロ)の従来手段は、ともに第1アクションにて充填物を所定容積の計量室に蓄え、第2アクションにて容器外へ排出するものであり、(ハ)の従来例はチューブ式容器で、弾性質の材料より成る容器本体の内壁面の要に、その対向壁面に当接して周壁の加圧変形を規制するストッパーを設け、充填物を一定量ずつ取出し得るように構成したものである。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記いずれの従来手段も、定量取出し容器の内部に残った充填物の量、又は操作の微妙な違いによって、取出し量が異なるという問題があり、又、全ての充填物が一室に充填されているため、一定量を取り出す際に、それ以降も貯蔵される残りの充填物の保存状態が悪化するという問題があった。

【0004】本発明は、上記実情に鑑みて成されたもので、操作の差異に関わらず均一に充填物を取出すことができ、一定量を取り出す際に、それ以降も貯蔵される残りの充填物の保存状態を維持し得る定量取出し容器の提供を目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】円筒状の容器本体に、その内部を放射状に等分割する仕切壁を設け、仕切壁の間に等容積の充填室を複数形成し、該容器本体に、その開口端を封止するキャップを回転自在に嵌合し、該キャ

ップに単一充填室内の充填物のみを取出し得るノズルを設け、キャップの回転に伴い、ノズルと単一充填室との向合時にクリック感が発生するラチェット機構を設けた定量取出し容器。

【0006】容器本体の開口端の中央部に軸受部を設け、キャップの天板の裏面の中央部に前記軸受部へ回転自在に且つ離脱困難に嵌合する軸部を設けても良い。

## 【0007】

【作用】各充填室の容積をすべて等しく設定されているので、いずれかの充填室にキャップのノズルを一致することによって、一定量ずつ使用することが可能となる。又、容器本体の開口端の中央部に設けた軸受部へ、キャップの天板の裏面中央部に設けた軸部を回転自在に且つ離脱困難に嵌合することによって、各充填室の封止状態をより強固なものとする。

## 【0008】

【実施例】以下、本発明による定量取出し容器の一例を、図面に基づき詳細に説明する。本発明による定量取出し容器は、合成樹脂より成り、円筒状容器本体1の上部にキャップ4を回転自在に嵌合し、キャップ4の回転に伴ってクリック感を発生するラチェット機構6を設けたものである。

【0009】容器本体1は、一端を開放したコップ状に成形し、同時にその内部を放射状に等分割する仕切壁2を形成することによって、等容積の充填室3を複数形成したものである。ちなみに、本実施例では36度間隔で仕切壁2を形成することによって十個の充填室3を設け、容器本体1の上端部の全外周に、キャップ4を離脱困難にするための嵌合溝10と、前記ラチェット機構6の構成要素である掛止溝12を設けた。

【0010】キャップ4は、円盤状の天板8と、その周縁より起立する周壁14と、前記天板8の縁部より突出するノズル5と、該ノズル5の排出口17を封止する栓18とを一体成形したものである。天板8には、ノズル5の内部に連通する排出孔15が設けてあり、その排出孔15の形状及び大きさは、単一充填室3の開口部の範囲に収まるように設定されている。周壁14は、内面に前記嵌合溝10に嵌まる嵌合条11と、掛止溝12に嵌まる掛止条13が突設してあり、更に、周壁14外面のノズルに最も近い方向より連絡部20を延設し、その先端に前記栓18が形成してある。

【0011】前記掛止条13は、比較的幅が狭い凸条で、周壁14全体において、ノズル5に最も近い位置を始点として充填室3の数だけ等間隔に突設してあり、掛止溝12は、幅の狭い小溝12aと、幅の広い大溝12bとが交互に設けてある。小溝12aは、容器本体1の周壁14のうち、個々の充填室3が占める領域の中央部に設け、凹部の幅を、掛止条13がちょうど嵌まるように設定する。一方、大溝12bは、小溝12aと小溝12aとの間に設け、凹部の幅を小溝12aの幅よりも十

3

分広く設定する。以上のごとく掛止溝12と掛止条13を設けることによって、小溝12aに掛止条13が嵌まると、キャップ4の回転方向への動きが極端に制限され、ノズル5と充填室3の向合位置においてキャップ4を確実に保持することができる。

【0012】又、小溝12aと大溝12bとを隔てる突片19は、比較的幅狭く形成されており、前記掛止条13が、小溝12aから大溝12bへ移動する時と、大溝12bから小溝12aへ移動する時にクリック感が発生する。クリック感が発生するまでの可動範囲の違いによ

って、前記排出孔15と充填室3との位置関係を感知することができ、所定の充填室3のみに排出孔15を容易に向合させることができる。

【0013】充填室3と排出孔15の向合時における、掛止溝12と掛止条13による遊びは、排出孔15が二つの充填室3、3に亘って向合しない限り多少あっても構わないが、嵌合溝10と嵌合条11による回転軸方向の遊びは、充填室3同士、又は外部に対してリークが生じる原因となるので、できる限り少ないほうが望ましい。そこで本実施例では、嵌合溝10と嵌合条11を、

比較的緊密な状態で嵌合できるよう成形した。

【0014】更に、容器本体1の中央部に、キャップ4の回転の軸となる軸受部7を設けると共に、キャップ4の天板8の裏面中央に、前記軸受部7に嵌合する筒状の軸部9を突設して、前記軸受部7の上端内縁と軸部9の外側面に、それぞれ嵌合溝10と嵌合条11を設けた。これらによって、キャップ4の天板8の裏面全体を、比較的強い力で均一に、全充填室3の開口部へ密着させることができる。又、より密封状態を高めた場合には、キャップ4の天板8の裏面や各仕切壁2の端面等を始めと

する摺接部に、前記排出孔15を避けた状態でゴムシート等の密封材を適宜着接しても良い。

【0015】尚、前記実施例において、容器本体1又は\*

4

\*キャップ4の少なくとも一方を透明又は半透明樹脂で成形すれば、各充填室3における充填物の有無や、各充填室3とノズルとの向合状態を目視することができる。

又、充填室3の数、形状並びに容器全体の外觀や軸受部7の有無は、用途に合わせて適宜設定すれば良い。

【0016】

【発明の効果】以上のごとく本発明による定量取出し容器は、流動体から粉末に至る多種多様な物品についての使用が可能であり、充填物の残量や操作の微妙な違いに関わらず、単一充填室に充填された充填物を確実に取出すことができる。又、充填物を排出する際、容器内に貯蔵されている他の充填物を汚染等から保護することができ、更に、容器本体の軸受部に、キャップの天板裏面の軸部を回転自在に、且つ離脱困難に嵌合することで、封止状態をより高めることができるので、定量ずつ飲むことが望ましい薬液や薬剤の容器として、顕著な実用効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による定量取出し容器の一例を示す一部切欠斜視図である。

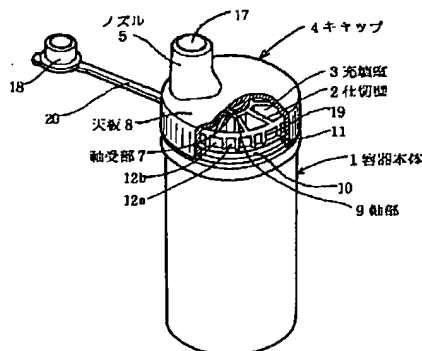
【図2】前記容器の縦断面図である。

【図3】図2のA-A矢視断面図である。

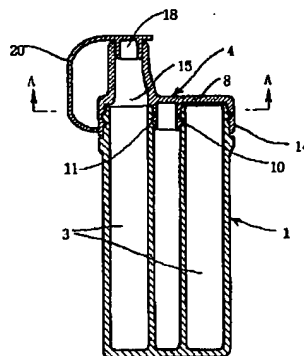
【符号の説明】

- 1 容器本体
- 2 仕切壁
- 3 充填室
- 4 キャップ
- 5 ノズル
- 6 ラチェット機構
- 7 軸受部
- 8 天板
- 9 軸部

【図1】



【図2】



【図3】

